

夏夜涼を追う

楊

万里

夜熱依然として午熱同じ

門を開いて小立す月明の中

竹深く樹密にして虫鳴く処

時に微涼有るも是れ風ならず

【作者】楊万里(一一二四～一二〇六年)・南宋の詩人。字は廷秀、号は誠齋、江西省吉水の人。性格は剛直、抗戦派、そのため出世できず地方官

を歴任。晩年は郷里に隠棲。死後、光祿大夫を贈られて、文節と諡された。勤めた依然…相変わらずである。依然として。もとのまま。

南宋の「中興四大詩人」の一。(尤袤一楊万里一范成大一陸遊)

【語釈】*夏夜追涼…夏の夜に、涼を求めて。 *夜熱…夜のあつき。 *依然…相変わらずである。依然として。もとのまま。

*小立…しばらく立つ。 *微涼…かすかなさずしさ。

【通釈】夜の熱気は、依然として昼間のあつきと同じで。ドアを開けて、しばらく月明かりの中に立っていた。

竹藪が深く、樹々が密生して、虫が鳴いているところでは。微(かす)かな涼しさがあるものの、それは風ではない。